

平成30年度(2018)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
花・野菜技術センター一年報

令和2年2月

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
農業研究本部 花・野菜技術センター

平成30年度  
花・野菜技術センター年報  
目次

**I 総説**

1. 沿革	1
2. 位置および土壌	2
3. 用地および利用区分	2
4. 機構	2
5. 職員	3
6. 収入支出決算額	4
7. 建物	5
8. 施設および備品	6

**II 作況**

1. 気象概要	7
2. 野菜類の生育状況	7

**III 事業の推進方向と成果の概要**

1. 研究部	10
2. 技術普及室	12

**IV 試験研究および地域支援等活動の課題名**

1. 花き野菜に関する試験	13
2. 栽培環境に関する試験	14
3. 病害虫に関する試験	15
4. 技術体系化に関する試験	16
5. 地域支援に関する試験等	16

**V 研修事業の概要**

1. 概要	17
2. 研修事業の推進	17
3. 北海道花き・野菜技術研修	18
4. 研修ほ場等作付概要	22

**VI 研究発表並びに普及事項**

1. 研究報告・資料	23
2. 印刷刊行物	24
3. 普及事項	24

**VII その他**

1. 職員の研修	26
2. 見学・参観	26
3. 研修生の受入れ（研修事業以外）	27
4. 委員会活動	27
5. 公開デー2017の実施	28
6. 講師等の派遣	28
7. 各種委員	28

**VIII 自己点検への対応**

自己点検への対応	30
----------	----

# I 総 説

## 1. 沿革

### (1) 設立の趣旨と経過

当センターは、本道農業の戦略作物である花き・野菜生産の一層の振興を図るため、試験研究部門とその技術を普及する部門を一体化し、相互の連携の下に総合的な機能を果たす拠点施設として、平成8年度に設立された。

試験研究では、北海道立総合研究機構の農業試験場における花き・野菜の中核的研究機関として、関係場との分担を図りながら、新品種の開発、栽培技術および流通技術等に関する試験を効率的に推進し、また、技術普及・研修では、開発された新技術を重点的かつ効率的に普及指導し、地域への定着を図るとともに、生産者や指導者等に対する技術指導はもとより、「開かれた試験場」として、一般消費者をも対象とした啓発研修を行うとしている。

平成4年度に調査費、同5年度には設計費が予算化された。平成6年度より道立滝川畜産試験場内に研究棟などの建設、ほ場の整備が開始され、同7年度には付属施設、研修寮、温室などすべての施設の建設と備品の納入も完了した。一部、幹線などの舗装工事、外構工事等を平成8年度に残したが、同年3月には「北海道立農業試験場条例」を改正、4月に職員が配置され、業務を開始した。8月30日には、北海道知事、滝川市長、農業団体など関係者を迎え、開所式を開催した。平成9年度より本格的に試験研究、研修などを開始、平成10年度以降もハウスの移転、新設など環境の整備が進み、着実に成果をあげている。

### (2) 組織機構の変遷

平成8年4月に場長以下、総務部、研究部、専門技術員室の2部1室体制でスタートしたが、場長および研修主査を除く総務部は隣接する滝川畜産試験場との兼務体制であった。

平成12年4月、道立畜産試験場の再編に伴い、場長以下、総務部の兼務体制が解かれ、専任の体制となった。

また、道立農業試験場の機構改革により、専門技術員室は発展的に解消し、技術普及部が新設さ

れ、技術普及体制の強化が図られた。

平成22年4月、22道立試験研究機関を統合し創設された地方独立行政法人北海道立総合研究機構の農業研究本部の一員として、3グループからなる研究部と総務課の体制で再スタートし、道所属の普及指導員が駐在する技術普及室が設置された。

### (3) 試験研究体制と推進方向

研究部は、平成8年度は花き2科、野菜2科、土壌肥料科、病虫科の6科体制であったが、平成12年度に花き科、野菜科、園芸環境科、病虫科の4科体制となった。平成18年度には園芸環境科を栽培環境科と改称した。平成22年度からは、旧花き科・野菜科を統合した花き野菜グループ、旧栽培環境科・病虫科からなる生産環境グループに加えて、旧技術普及部の研修・地域対応と旧総務部管理科機能を併せた技術研修グループからなる3グループ体制となった。

当センターは、花き・野菜に関する試験研究を行う専門場に位置づけられ、品種・栽培部門と栽培環境・病害虫の環境部門が一体化した総合的な試験研究を効率的に推進することが期待されている。

また、花き・野菜の試験研究の中核的機関として、農業研究本部、各場との連携の下に花き・野菜に関する試験研究の企画調整や地域対応研究も担っている。

### (4) 研修体制および技術普及と推進方向

当センターにおける重要な業務として、試験研究とともに技術研修と技術普及がある。

技術研修は、試験研究で開発または体系化された新技術の生産現場への速やかで効率的な伝達普及を目的として、農業技術指導者、中核的農業者などを対象に実施している。長期的な専門研修から市民セミナーまで幅広い研修内容となっており、研究員と普及指導員、各農試の協力のほか、外部講師を招き指導している。研修事業に対応した研修寮、技術研修室、研修用ほ場・温室が整備されるとともに、研修担当者が配置され平成8年

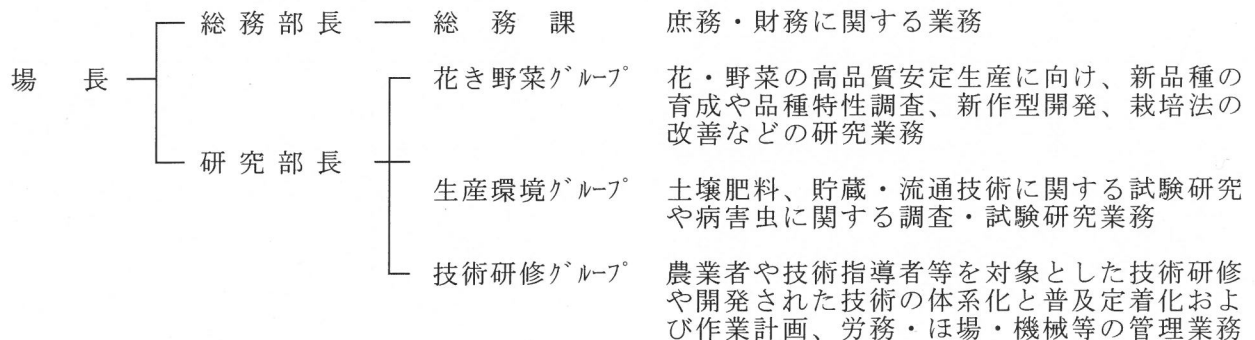
度の準備期間を経て、平成9年度から本格的に研修事業を開始した。平成12年度に研修業務が総務部から新設の技術普及部に移管し、さらに、平成22年度には研修事業と技術支援、旧管理科業務を担う技術研修グループが新設され研究部にこれら業務が移管することとなった。

そのほか、当センターには開放実験室、展示温室、展示ほ場も設置され、農業関係者ばかりでなく、一般道民にも「開かれた試験場」として利用できる試験研究機関を目指している。

普及部門は、平成8年度より専門技術員室（滝川専技室）が設置され、普及支援活動や技術相談の機能を果たしてきたが、平成12年度に専門技術員と研究職員および研修担当者からなる技術普及部が新設され、普及・技術支援・研修に対応してきた。さらに、研究部と技術普及部で組織された技術体系化チームによる新技術の普及推進体制が整えられた。平成18年には農業改良助長法の改正により、専門技術員が普及指導員へ一元化されるとともに道立農試機構改正による技術普及部の体制も変更した。

また、平成22年度より、独法化による技術普及部の廃止にともない技術普及室が新設され、道所属の普及指導員が駐在して普及業務を担っている。

#### 4. 機 構 （平成31年3月31日現在）



花・野菜技術センター技術普及室\*

上席普及指導員 — 主任普及指導員

## 2. 位置および土壌

滝川市東滝川735番地

北緯43° 35′ 東経141° 59′

滝川市街より空知川に沿って東北に約8km、JR根室本線東滝川駅より約1kmにある。中央バス滝川ターミナルより赤平芦別方面行きバスに約13分間乗車し、花・野菜技術センター入口で下車、徒歩15分（約1km）。道央自動車道滝川インターチェンジより国道38号線を経由し車で5～6分。

本センターは洪積台地（地形は低位段丘、平坦～緩傾斜）にあり、土壌の種類は細粒灰色台地土（暗色表層疑似グライ土）である。しかし、圃場整備により、作土層（40cm）は旧表土22cmに砂質軽石流堆積物を18cm客土、混和している。

ハウス圃場は酸性褐色森林土の客入土にバーク堆肥、土壌改良資材（炭カル）を投入し、改良した。平成9年、さらに砂質軽石流堆積物15cm程度を客土、混和した。

## 3. 用地および利用区分

総面積	51.8ha
建物敷地	19.2ha
庁舎	10.2ha
調査棟・温室	3.7ha
機械庫その他	5.3ha
畑	31.0ha
試験・展示・研修圃場	26.7ha
ハウス・枠圃場	4.3ha
道路用地	1.6ha

普及センター等への支援、専門技術の調査研究  
（\* 所属：北海道農政部生産振興局技術普及課）

## 5. 職 員

### (1) 職員数 (平成31年3月31日現在)

区 分	場 長	部 長	総 務 課	花き野菜G	生産環境G	技術研修G	計
研究 (プロパー)		1		8	6	2	17
研究支援 (プロパー)			2			5	7
研究支援 (道派遣)	1	1	2			2	6
計	1	2	(兼務1外数) 4	8	6	9	30

### (2) 現職員名簿 (平成31年3月31日現在)

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名	
総務部	場 長	桑名 真人	生産環境G	研 究 主 査	田丸 浩幸	
	総務部長	高林 仁和	"	研 究 主 査	野田 智昭	
	総務課長(兼)	高林 仁和	"	主査(病虫)	佐々木 純	
	"	主査(総務)	"	研 究 主 査	白井 佳代	
	"	主査(調整)	市川 雅一	技術研修G	研 究 主 幹	福川 英司
	"	主 任	岩橋 広樹	"	主査(技術研修)	植野 玲一郎
研究部	主 任	土田 操	"	主査(研修)	山井 雅之	
	研究部長	川岸 康司	"	専 門 主 任	高橋 英樹	
	花き野菜G	研究主幹	"	"	南 貴夫	
	"	主査(花き)	"	"	寺口 佳孝	
	"	主査(野菜)	"	"	北 和宏	
	"	主査(施設)	大久保 進一	"	主 任	及川 忠
	"	研究主査	柳田 大介	"	"	玉川 忠
	"	研究主任	木村 文彦	(道技術普及室)	上席普及指導員	宮町 良治
	"	研究主任	江原 清	"	主任普及指導員	鹿野 理
	生産環境G	研究職員	柏谷 太亮	"		
"	研究主幹	美濃 健一				
"	主査(栽培環境)	後藤 英次				

### (3) 転入・採用

職 名	氏 名	採用転入年月日	備 考
場長	桑名 真人	30. 4. 1	農政部農産振興課
研究部 技術研修G 主査(研修)	山井 雅之	30. 4. 1	北見農業試験場総務部総務課(再)
研究部 花き野菜G 研究職員	柏谷 太亮	30. 4. 1	新規採用
研究部 花き野菜G 主査(花き)	大宮 知	30. 4. 1	総務部原子力環境センター農業研究科
研究部 花き野菜G 主査(施設)	大久保 進一	30. 4. 1	農業研究本部企画調整部企画課
道技術普及室 主任普及指導員	鹿野 理	30. 4. 1	石狩農業改良普及センター本所

## (4) 転出・退職

職 名	氏 名	転出退職年月日	備 考
場長	秋 元 勝 彦	30. 3. 31	農政部生産局
研究部 技術研修G 主査(研修)	清 水 政 宏	30. 3. 31	留萌振興局農務課
研究部 花き野菜G 主査(花き)	鈴 木 亮 子	30. 3. 31	十勝農業試験場研究部地域技術G
研究部 花き野菜G 研究主査	田 縁 勝 洋	30. 3. 31	十勝農業試験場研究部地域技術G
研究部 花き野菜G 研究職員	古 山 真 一	30. 3. 31	上川農業試験場研究部地域技術G
総務部 総務課 主任(再)	佐 藤 勝 宏	30. 3. 31	再任用の任期満了による退職
道技術普及室 主任普及指導員	小 林 孝 夫	30. 3. 31	上川農業改良普及センター大雪支所

## 6. 収入支出決算額

## (1) 収入決算額

(単位：円)

科 目	決 算 額
技術普及指導手数料	360,760
農産物売払収入 (うち花・野菜技術センター分)	17,629(農研本部配分を含む。) ( 17,629)
畜産物売払収入	0(農研本部配分を含む。)
不用品売払収入	0
法人財産使用料等	326,449
その他雑収入	0
共同研究費負担金	2,000,000
国庫受託研究収入	0
道受託研究収入	1,438,080
その他受託研究収入	11,488,000
施設整備費補助金収入	10,800,000
計	26,430,918

※事業費支弁人件費振替額及び施設整備費補助金収入を含まない

## (2) 支出決算額

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	繰 越 額	残 額
戦 略 研 究 費	2,600,000	2,558,791	1,693	39,516
重 点 研 究 費	5,500,000	5,500,000	0	0
職 員 研 究 奨 励 費	1,100,000	1,100,000	0	0
経 常 研 究 費	9,854,000	9,711,220	0	142,780
研 究 開 発 推 進 費	827,000	827,000	0	0
技 術 普 及 指 導 費	5,866,340	5,865,123	0	1,217
研 究 用 備 品 整 備 費	3,264,544	3,264,544	0	0
維 持 管 理 経 費 ( 研 究 )	725,000	725,000	0	0
研 究 用 備 品 費 ( 積 立 金 )	1,846,476	1,846,476	0	0
維 持 管 理 経 費	75,996,871	75,994,806	0	2,065
運 営 経 費	49,198,269	49,152,881	0	45,388
共 同 研 究 費	2,000,000	2,000,000	0	0
国 庫 受 託 研 究 費	0	0	0	0

道 受 託 研 究 費	1,439,000	1,438,080	0	920
そ の 他 受 託 研 究 費	10,983,000	10,981,153	0	1,847
施 設 整 備 費 補 助 金	10,800,000	10,800,000	0	0
施 設 整 備 費 ( 積 立 金 )	28,609,000	28,605,858		3,142
計	210,609,500	210,370,932	1,693	236,875

※事業費支弁人件費振替額を除く

## 7. 建 物

### (1) 現 有 ( 平 成 3 1 年 3 月 3 1 日 現 在 )

名 称	構 造	面 積
事務庁舎	レンガ造2階	449.86 m <sup>2</sup>
総合研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	721.36
農機具格納庫	木造平屋	233.00
総務課第2車庫	〃	43.74
庁舎2号物置	〃	49.58
第2運動器具庫	〃	24.79
運動具庫	〃	5.04
管理科油類格納庫	ブロック造平屋	5.69
管理科職員詰所	木造平屋	106.92
機材庫	鉄骨平屋	1,033.46
農業機械格納庫	〃	569.16
総合車庫	〃	187.20
花・野菜技術センター研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	2,104.73
展示温室	鉄骨平屋	118.87
研修宿泊棟	鉄筋コンクリート2階	1,205.84
花き・野菜調査棟	鉄骨平屋	384.00
病虫・土壌作物調査棟	〃	390.00
保鮮実験棟	〃	232.80
花き・野菜詰所	〃	141.62
床土置場・土詰播種作業棟	〃	553.80
農機具格納庫・車庫棟	〃	659.34
電気室棟	〃	66.30
花き温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
〃 -3	〃	166.00
野菜温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
〃 -3	〃	166.00
病虫温室	〃	166.00
土肥温室	〃	166.00
研修温室-1	〃	290.25
〃 -2	〃	290.25
環境制御温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
人工気象室	〃	80.18
ミスト室	〃	164.20
参観者トイレ	〃	37.96

<続き>

名 称	構 造	面 積
来園者トイレ	鉄筋コンクリート平屋	29.25
総務課倉庫	木造平屋	43.74
圃場避難棟-1	〃	29.16
〃-2	〃	29.16
総務課物置3	木造平屋	26.46 m <sup>2</sup>
〃4	〃	26.46
〃5	〃	14.87
第2研修寮	ブロック造平屋	122.50
第2研修寮物置	木造平屋	9.93
第2堆肥舎	鉄筋コンクリート平屋	128.00

## 8. 施設および備品

### (1) 新たに設置した施設

名 称	構 造	数量	新設年月日	価 格	摘 要
第2堆肥舎	鉄筋コンクリート平屋	1	H30.11.29	29,235,600	

### (2) 新たに購入した備品 (50万円以上)

品 名	数量	規格および型式	金 額	配 置
軽貨物自動車	1	AT、4輪駆動 日産NT100クリップ-EBDDR16T	916,240	生産環境G
乗用草刈り機	1	フジコーポレーション(株)MG1022 x MR-775-1	788,400	技術研修G
マルチエアコン	2	ダイキン XRTP160D ダイキン SZRH80BCT	1,568,614	生産環境G
全自動野菜播種機	1	みのる OSE-12	615,600	生産環境G
スノーブロー	1	タカキタ(株) SB2590U	896,400	技術研修G
蒸留水製造装置	1	ヤマト科学(株) WA511	950,076	花き野菜G
軽貨物自動車	1	AT、4輪駆動 日産NT100クリップ-EBDDR16T	924,240	技術研修G
土壌硬度計	1	大起理化工業(株) DIK-5532 デジタル貫入式	558,144	生産環境G



## Ⅱ 作 況

### 1. 気象概要

#### (1) 冬期間の経過

冬期間（11月～3月）の平均気温は11月下旬～12月上旬と2月下旬は低かったが、1月上旬は高かった。降水量は11月と3月が多かった。12～2月は平年並に推移した。日照時間は11月中～下旬、12月下旬～1月上旬、3月上～中旬は多かったが、その他は平年並であった。

#### (2) 農耕期間の経過

農耕期間（5月から9月）の平均気温は4月中～下旬、5月中～6月上旬および7月中～下旬はやや高く推移したが、6月中～7月上旬はやや低く推移した。農耕期間の積算気温は2595.2℃で平年の94.2%であった。

降水量は4月下旬と9月では少なく、6月中～下旬、7月上～中、8月が多かった。特に、7月上～中旬は極めて多かった。農耕期間を通しての積算降水量は734mmで平年の131.9%であった。

日照時間は4月上旬、6月下旬～7月上旬、8月中～下旬、9月下旬は少なかった。5月下旬、7月下旬～8月上旬、9月中旬は多かった。農耕期間を通しての積算日照時間は796.0時間で平年の92.4%であった。

本年の農耕期間の気象は、気温はやや低く推移し、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

#### (3) 月別の経過

4月：平均気温は中～下旬は高かった。降水量は下旬が少なかったが、他は平年並であった。日照時間は上旬は少なかったが、中～下旬は多かった。

5月：平均気温は中～下旬は高かった。降水量は平年並であった。日照時間は下旬はやや多く、他は平年並であった。

6月：平均気温は、中～下旬では平年に比べ低く推移した。降水量は中～下旬で多く、日照時間は下旬は少なかった。

7月：平均気温は上旬は低かったが、中～下旬はやや高かった。降水量は上～中旬が極めて多く、下旬は極めて少なかった。日照時間は上

旬は少なかったが、中～下旬は平年並であった。

8月：平均気温は低かった。降水量は多かった。日照時間は上旬は多く、中～下旬は少なかった。

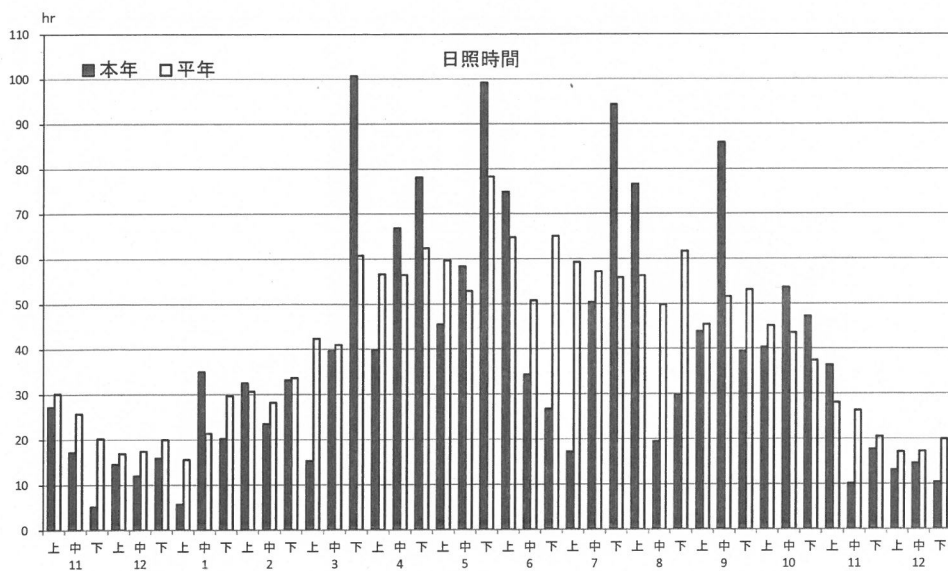
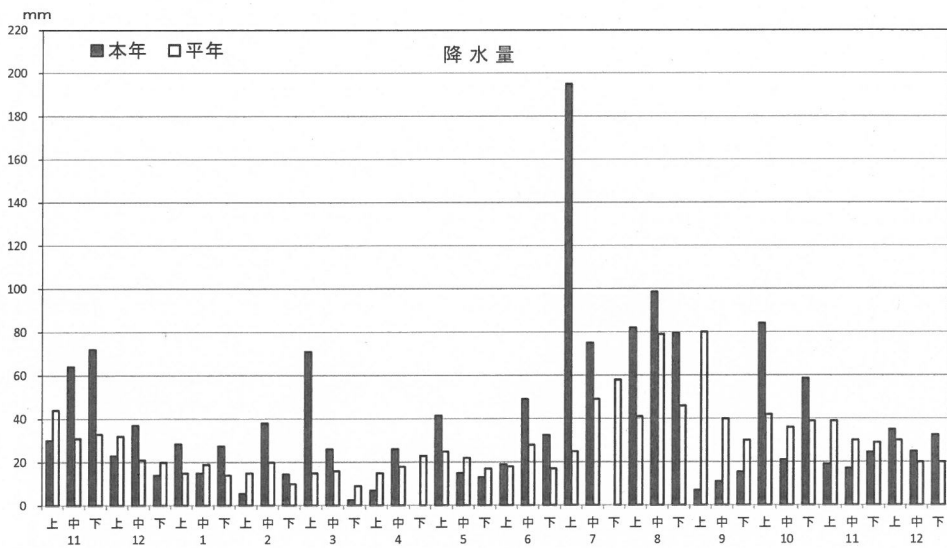
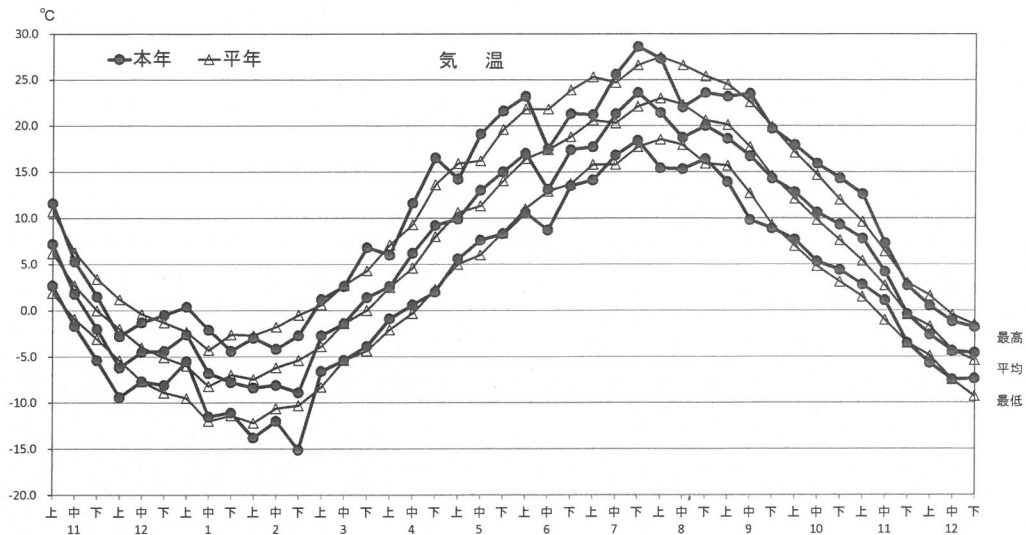
9月：平均気温は上～中旬が低かった。降水量は極めて少なかった。日照時間は下旬は少なく、中旬は多かった。

10月：平均気温は下旬が高かったが、中旬は平年並であった。降水量は上旬および下旬は多く、中旬は平年並で、日照時間は平年並であった。

### 2. 野菜類の生育状況

#### (1) いちご（対象品種：「けんたろう」）

平成29年8月21日定植の無加温半促成作型で土耕栽培した。8月中旬～9月中旬の平均気温はやや低かった。また、10月中旬が2.9℃低かった。ハウスフィルムを被覆した2月下旬の最深積雪が167cmで平年の約1.7倍あったことから、ハウス内融雪期は3月29日と平年より9日遅かった。このため、「けんたろう」の開花始期は4月22日で平年より4日遅かった。4月下旬の平均気温が平年より2.3℃高く、日照時間も24.8時間多かった。また、5月中旬の平均気温も平年より1.4℃高かった。このため、収穫始期は5月20日となり、平年より2日早かった。5月下旬～6月上旬は平年に比べ平均気温が1.5～2.0℃高く、日照時間が16.1～27.2時間多かった。一方、6月中旬の平均気温は平年より3.2℃低かった。このため、規格内一果重は13.0gで平年並であったが、規格内収穫果数は201千個/10aで平年より34%多かった。この結果、「けんたろう」の総収量は3454kg/10aの多収、規格内収量も2614kg/10aで平年より33%多かった。Brixは9.3%で平年並みであった。



平成30年度滝川気象図

気象表 (平成29年11月～平成30年12月)

年月旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(時間)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
上	7.2	6.2	1.0	11.6	10.7	0.9	2.7	1.9	0.8	30	44	△ 14	6	6	0	27.2	30.2	△ 3.0
11中	1.8	2.7	△ 0.9	5.3	6.3	△ 1.0	-1.7	-0.9	△ 0.8	64	31	33	8	6	2	17.2	25.7	△ 8.5
下	-2.0	0.0	△ 2.0	1.5	3.4	△ 1.9	-5.4	-3.1	△ 2.3	72	33	39	7	6	1	5.1	20.2	△ 15.1
H29																		
上	-6.2	-2.0	△ 4.2	-2.8	1.2	△ 4.0	-9.4	-5.4	△ 4.0	23	32	△ 9	8	6	2	14.6	16.9	△ 2.3
12中	-4.5	-4.0	△ 0.5	-1.3	-0.4	△ 0.9	-7.7	-7.7	0.0	37	21	16	9	6	3	12.0	17.4	△ 5.4
下	-4.4	-5.1	0.7	-0.5	-1.3	0.8	-8.1	-8.9	0.8	14	20	△ 6	4	6	△ 2	15.9	20.0	△ 4.1
H30																		
上	-2.6	-6.0	3.4	0.4	-2.3	2.7	-5.5	-8.5	4.0	29	15	14	6	5	1	5.7	15.6	△ 9.9
1中	-6.8	-8.2	1.4	-2.1	-4.3	2.2	-11.5	-12.0	0.5	15	19	△ 4	4	6	△ 2	35.0	21.4	13.6
下	-7.8	-7.0	△ 0.8	-4.4	-2.6	△ 1.8	-11.1	-11.4	0.3	28	14	14	10	6	4	20.2	29.7	△ 9.5
上	-8.4	-7.5	△ 0.9	-3.0	-2.7	△ 0.3	-13.8	-12.2	△ 1.6	6	15	△ 10	5	6	△ 1	32.5	30.7	1.8
2中	-8.1	-6.2	△ 1.9	-4.2	-1.8	△ 2.4	-12.0	-10.6	△ 1.4	38	20	18	9	6	3	23.5	28.2	△ 4.7
下	-8.9	-5.4	△ 3.5	-2.7	-0.5	△ 2.2	-15.1	-10.3	△ 4.8	15	10	5	4	4	0	33.2	33.7	△ 0.5
上	-2.7	-3.9	1.2	1.2	0.6	0.6	-6.6	-8.3	1.7	71	15	56	5	5	0	15.3	42.4	△ 27.1
3中	-1.4	-1.4	0.0	2.6	2.7	△ 0.1	-5.4	-5.4	0.0	26	16	10	4	4	0	39.6	41.0	△ 1.4
下	1.4	0.0	1.4	6.8	4.3	2.5	-3.9	-4.4	0.5	3	9	△ 7	1	3	△ 2	100.7	60.8	39.9
上	2.6	2.5	0.1	6.0	7.1	△ 1.1	-0.9	-2.1	1.2	7	15	△ 8	4	4	0	39.8	56.7	△ 16.9
4中	6.2	4.6	1.6	11.6	9.3	2.3	0.6	-0.3	0.9	26	18	8	4	4	0	66.9	56.5	10.4
下	9.2	8.0	1.2	16.5	13.6	2.9	2.0	2.3	△ 0.3	0	23	△ 23	0	4	△ 4	78.1	62.4	15.7
上	9.9	10.6	△ 0.7	14.2	15.9	△ 1.7	5.6	5.0	0.6	42	25	17	5	4	1	45.5	59.7	△ 14.2
5中	13.0	11.3	1.7	19.1	16.2	2.9	7.6	6.0	1.6	15	22	△ 7	4	2	2	58.4	52.9	5.5
下	15.0	14.0	1.0	21.6	19.6	2.0	8.3	8.4	△ 0.1	13	17	△ 4	5	3	2	99.2	78.3	20.9
上	17.0	16.4	0.6	23.2	21.8	1.4	10.6	11.0	△ 0.4	19	18	1	2	3	△ 1	74.9	64.8	10.1
6中	13.1	17.4	△ 4.3	17.5	21.8	△ 4.3	8.7	12.9	△ 4.2	49	28	21	5	4	1	34.3	50.8	△ 16.5
下	17.4	18.8	△ 1.4	21.3	23.9	△ 2.6	13.5	13.7	△ 0.2	33	17	16	5	2	3	26.7	65.1	△ 38.4
上	17.7	20.6	△ 2.9	21.2	25.3	△ 4.1	14.1	15.8	△ 1.7	195	25	170	6	3	3	17.2	59.3	△ 42.1
7中	21.3	20.3	1.0	25.6	24.7	0.9	16.8	15.8	1.0	75	49	26	4	3	1	50.4	57.2	△ 6.8
下	23.6	22.1	1.5	28.6	26.6	2.0	18.4	17.7	0.7	0	58	△ 58	0	3	△ 3	94.4	55.9	38.5
上	21.4	23.0	△ 1.6	27.3	27.5	△ 0.2	15.4	18.5	△ 3.1	82	41	41	2	3	△ 1	76.6	56.3	20.3
8中	18.7	22.3	△ 3.6	22.0	26.6	△ 4.6	15.3	17.9	△ 2.6	99	79	20	6	4	2	19.4	49.8	△ 30.4
下	20.0	20.6	△ 0.6	23.6	25.4	△ 1.8	16.4	15.9	0.5	80	46	34	7	4	3	29.7	61.7	△ 32.0
上	18.6	20.1	△ 1.5	23.2	24.5	△ 1.3	13.9	15.7	△ 1.8	7	80	△ 73	3	5	△ 2	43.9	45.4	△ 1.5
9中	16.7	17.7	△ 1.0	23.5	22.6	0.9	9.8	12.7	△ 2.9	11	40	△ 29	3	4	△ 1	85.9	51.6	34.3
下	14.3	14.6	△ 0.3	19.7	19.9	△ 0.2	8.9	9.3	△ 0.4	16	30	△ 15	6	4	2	39.5	53.1	△ 13.6
上	12.8	12.1	0.7	17.9	17.1	0.8	7.7	7.0	0.7	84	42	42	7	5	2	40.3	45.1	△ 4.8
10中	10.6	9.8	0.8	15.9	14.7	1.2	5.3	4.8	0.5	21	36	△ 15	6	6	0	53.6	43.6	10.0
下	9.3	7.6	1.7	14.3	12.0	2.3	4.4	3.1	1.3	59	39	20	7	5	2	47.2	37.4	9.8
上	7.8	5.4	2.4	12.6	9.6	3.0	2.8	1.5	1.3	19	39	△ 20	4	5	△ 1	36.4	28.1	8.3
11中	4.2	2.7	1.5	7.3	6.4	0.9	1.1	-1.0	2.1	17	30	△ 13	7	6	1	10.1	26.3	△ 16.2
下	-0.4	-0.4	0.0	2.7	3.0	△ 0.3	-3.5	-3.5	0.0	25	29	△ 5	10	6	4	17.7	20.5	△ 2.8
上	-2.6	-1.7	△ 0.9	0.5	1.6	△ 1.1	-5.7	-4.9	△ 0.8	35	30	5	6	6	0	13.1	17.1	△ 4.0
12中	-4.4	-4.3	△ 0.1	-1.2	-0.5	△ 0.7	-7.5	-7.5	0.0	25	20	5	7	6	1	14.6	17.2	△ 2.6
下	-4.6	-5.4	0.8	-1.8	-1.5	△ 0.3	-7.4	-9.3	1.9	33	20	13	9	6	3	10.4	19.9	△ 9.5
5~9月積算	2595.2	2754.3	△ 159.1	3371.6	3494.7	△ 123.1	1869.4	1937.8	△ 128.4	734	556	178	63	51	12	796.0	861.9	△ 65.9
平年比(%)	94.2			96.5			93.6			131.9			123.5			92.4		

注1 滝川地域気象観測所のAMeDAS観測値。注2 日照時間は太陽電池式(新型)による。注3 平年値は前10年の平均値。注4 △印は減を示す。

### Ⅲ 事業の推進方向と成果の概要

#### 1. 研究部

##### (1) 花き野菜グループに関する試験

花きでは、切り花の出荷調整および品質管理に関するを実施する。野菜では、いちごの新品種育成、野菜の品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。花きおよび野菜とともに、技術研修Gの技術研修を分担する。

①「実需ニーズに対応した露地切り花の保鮮・出荷期調整技術の確立」では、しゃくやくの切り花貯蔵による出荷期間延長技術として、切り前と貯蔵条件を明らかにした。また、りんどうでは需要期に向けた出荷調節技術をまとめた。

②「高温期の道外移出に対応した一年生切り花の品質管理技術」では、スカビオサやマトリカリア等5品目について、前処理および輸送条件が花もちに及ぼす影響を明らかにした。

③「いちご春どり栽培の収益向上に寄与する多収性新品種の育成」では、春どり栽培用に「ゆきララ」並の果実品質を有する多収性いちご品種を育成することを目標に、交配および育成系統の選抜を行った。「25交13-39」を「空知交38号」の系統名を付して生産力検定および地域適応性検定試験に供試するとともに、「空知37号」は継続検討とした。系統選抜では「26交6-171」、「26交7-67」、「26交12-6」および「26交12-20」の検定を中止し、生産力予備検定試験に「26交19-9」を新たに供試することにした。

④「野菜の地域適応性検定」では、道南農試（北斗市）、豊浦町、比布町におけるいちご検定系統「空知37号」の生育・収量などを明らかにした。「空知37号」は収量性に優れ現地の関心も高いが、食味がやや不良で継続検討しても品種化は難しいため、地域適応性検定試験は休止することとした。

⑤「保温装備と耐雪性を強化した北海道型ハウスの無加温周年利用技術の確立」では、ハウス周辺部への断熱資材埋設による地温上昇効果を確認した。

⑥「作業管理システム及び生育予測を核とした大規模施設園芸発展スキームの構築」では、いちごの局所暖房による生育促進効果ならびに燃料節減効果の検証を行った。

⑦「ブロッコリーの省力収穫を目指した品種特性の評価」では、ブロッコリーの品種特性を明らか

にし、一斉収穫に適した有望な1系統（SK9-099）を見いだした。

⑧「いちご新品種「ゆきララ」の安定生産に向けた栽培法の確立」では、生産現場での課題（果房数の確保や収穫初期の規格内収量の確保）を解決する栽培試験を行った。

⑨「トマトにおける養液栽培システム「ういずOne」を用いた省力低コスト栽培法の確立」では、6月定植におけるミニトマトの1本仕立て、2本仕立て、セル成型苗直接定植の特性を明らかにし、生育ステージごとの給液管理法をまとめた。

⑩「機械化栽培体系を想定した加工用トマトの栽培法の確立および品質評価と試作品の開発」では、開花の揃いやすい72穴セル成型苗2葉上摘心苗が一斉収穫には望ましいが、それでも目標収量の5t/10aには届かないことから、2回程度の選り取りと一斉収穫の組み合わせが必要であった。

⑪「加工用トマトの品種特性評価」では、供試した4品種のうち1品種において標準品種「なつのしゅん」より開花数・着果数が多くピークも高かったことから、一斉収穫の適期について、さらなる検討が必要である。

⑫「ニンニク在来系統の特性評価試験」では、ホワイト種3系統の農業特性に大きな違いは認められなかった。ピンク種では抽台出現時期に相違が見られた。

⑬「かぼちゃ茎葉処理機の開発」では、収穫作業の省力化を図るために茎葉処理機の試作機を開発した。収穫後の果実貯蔵腐敗への影響は無処理と同等であった。今後、知見は市販機開発に活用される。

⑭「いちご新品種「ゆきララ」の出荷・販売に向けたPR・パッケージの提案」では、品種名ロゴおよびキャッチコピーを作成し、平詰めの推奨などの内容も盛り込んだパンフレットを準備して、苗購入産地に対しPR・パッケージの提案を行った。

⑮「道産メロンの冬季供給を可能とする長期貯蔵出荷体系の確立」では、貯蔵前後の果実品質の関係が明らかになった。また、着果から収穫までの積算気温と果肉硬度の関係を示すとともに、果実

品質への仕立て方法の影響を明らかにした。

⑯「MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度流通体系化実証」では、MA包装資材を活用して、道産メロンの船便輸出実証試験を実施し、着荷後に果実の腐敗等は確認されず、実用性が確認された。

⑰「農業資材試験」では、たまねぎに対する除草剤2点および実えんどうに対する除草剤1点について成績をとりまとめた。

## (2) 生産環境グループに関する試験

生産環境グループは、花き・野菜の肥培管理や貯蔵・流通等の栽培環境に関する試験および病害虫に関する試験を実施している。また、技術研修グループで実施する地域支援課題や技術研修を分担する。

### 1) 栽培環境に関する試験

①「北海道における加工用トマトの肥効調節型肥料を用いた施肥技術の確立」では、基肥の一部を肥効調節型肥料で代替する効果の検証を行った。また、寒冷な北海道の地温を考慮し、適当な溶出タイプを明らかにする検討を行った。

②「紫さつまいもの生育環境および貯蔵条件がアントシアニン含量・抽出効率に及ぼす影響の解析」では、道内産と九州産の色素収量の比較と気温の影響、冷凍貯蔵の可否と抽出効率への影響を検討した。成果は今後の検討のための資料として利用する。

③「たまねぎ有機栽培における育苗培土の固化技術の開発」では、有機栽培で使用できる培土の組成及び充填方法の検討を行った。

④「加工・業務用途に対応したたまねぎ貯蔵性の解析とエチレン処理による長期貯蔵技術の開発」では、栽培法（直播、移植）、規格、施肥法（全量基肥、基肥＋分施）が貯蔵性に及ぼす影響を検討した。また、加工・業務用4品種について、エチレン貯蔵を行うとともに、加工利用の可否に係る内部萌芽長の判断基準を加工業者の聞き取りから設定した。

⑤「露地栽培加工用トマトの病害発生実態と疫病防除対策の確立」では、施肥量と発病に係る場内試験において、収量や果実の糖度と酸度の調査を行った。

⑥「トマトにおける養液栽培システム「ういず

One」を用いた省力低コスト栽培法の確立」では、簡易養液栽培システムを利用したミニトマトと大玉トマトの6月定植栽培において、道内での給液管理法を明らかにし、「養液栽培システム「ういずOne」を用いた6月定植におけるミニトマト及び大玉トマトの栽培法」として指導参考事項となった。

⑦「MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度移出体系」では、グリーンアスパラガスに関して、蔵置試験2回と輸送実証試験2回（関東・道内）を実施し、MA包装資材による包装と現状の氷詰め発泡スチロール箱包装および段ボール無包装での鮮度保持状況を比較検討した。また、スイートコーンに関しても、蔵置試験2回と輸送実証試験1回（関東）を実施し、MA包装資材による包装と現状の段ボール無包装での鮮度保持状況を比較検討した。

⑧「さつまいも生産における収益性向上を目指した育苗体系確立と加工適性の評価」では、蒸切干向け6品種、ペースト向け7品種について、各用途での特性を明らかにし、「北海道産さつまいもの切り干しいもおよびペースト加工適性」として指導参考事項となった。

⑨「生理障害診断試験」では6件の診断依頼に対応した。

⑩「農業農村整備事業に係る土壌調査」では、1地区3箇所土壌調査を実施し、各土壌の特徴と改良対策を示した。

### 2) 病害虫に関する試験

①「いちご春どり栽培の収益向上に寄与する多収性品種の育成」では、検定系統「空知37号」と「空知38号」について、疫病と萎黄病の特性検定ならびに萎凋病の抵抗性試験を実施した。「空知37号」と「空知38号」は次年度も検討を継続し、新たに「26交19-9」を供試する。

②「露地栽培加工用トマトの病害発生実態と疫病防除対策の確立」では、空知・石狩管内の現地圃場における病害発生状況調査を実施した。また、場内試験においては、栽培法および気象条件と疫病発生状況の関係や疫病的薬剤防除効果について検討を行った。

③「低濃度エタノールを用いた土壌還元作用による高設栽培いちごの培土消毒法の開発」では、ロックウール培土を対象に、カップを用いた室内試

験および高設栽培のモデル試験を実施し、還元消毒の効果を検討した。また、現地実証試験を苫小牧市において実施した。

④「農作物病害虫診断試験」では、37件の診断依頼に対応した。

⑤「農業資材試験」では、殺菌剤15点についてその効果を調査した。また、複数事例で有効性が認められた12点の殺虫剤および殺菌剤が指導参考事項となった。

⑥「病害虫発生予察調査」では、ねぎのべと病とさび病について、時期ごとの発生量などを調査した。

### (3) 技術研修グループに関する試験

技術研修グループは、地域農業技術支援会議に集められたニーズなど、現地実証が必要な課題について支援を行うとともに、これまでの成果を普及するために現地実証試験等を行っている。

#### 1) 革新的技術導入による地域支援

①「赤肉メロン品種「おくり姫」の普及促進に向けた栽培実証」では、富良野市現地ほ場においてうどんこ病に対する防除回数の低減を実証できたが、平成30年度産果実は契約先の直売業者には果実糖度のばらつきが低評価であった。安平町追分現地ほ場では地震災害により調査未了となった。平成30年度の「おくり姫」の作付面積は種子販売数量から4.5haと推定され、「レッド113」の作付面積72.6ha(H29年産・道庁農産振興課調べ)と合わせた抑制作型推定面積77.1haのうち5.8%に相当し、増加傾向である。

## 2. 技術普及室

### (1) 推進方向

技術普及室は、地域の試験研究に対する要望を的確に把握し、実用的な技術開発を行うとともに、その迅速な普及・定着を普及組織と一体的に推進するために、技術体系化チーム活動、地域農業の支援(地域農業技術支援会議)、農業改良普及センターへの技術支援を3つの柱として、花き・野菜研修事業および農業大学の研修事業の支援も含めて研究部門、農業改良普及センター、振興局および関係する機関団体と連携を図り活動を展開した。

## (2) 成果の概要

### 1) 地域農業技術支援会議への支援

空知総合振興局の地域農業技術支援会議構成員として参画し、農業研究本部技術普及室・普及センター・振興局と連携し専門場の研究および普及の立場から、花きと野菜に関する課題整理や解決方策を積極的に支援した。三者会議・関係者会議の他、普及センターが主体となったモデル地区の課題解決プロジェクトに参画した。

### 2) 農業改良普及センター支援と普及指導員研修

普及センターからの支援要請について、専門項目に関する支援要請活動計画に基づき支援した。

また、普及センターが取り組む普及活動に関する要請(重点普及課題、普及課題等)についても、管轄農試技術普及室と連携し積極的に技術支援を行った。

さらに、気象災害や突発的な病害虫の発生に対して、技術普及課および各技術普及室と連携を取りながら迅速に対応した。

普及指導員研修については、花・野菜技術センターで実施する道段階研修の新任者早期養成研修、専門技術研修(花き、野菜)、高度専門技術研修(花き、野菜)について技術普及室のほか花き野菜グループ、生産環境グループ、技術研修グループからの講義・実習等の協力も得て実施し、振興局段階や職場段階での研修についても積極的に支援した。

### 3) 研修事業への支援

花き・野菜技術研修事業における、講義・実習および運営等に関する支援を実施した。

その他の研修として、農業大学校等との協力連携による農大稲作経営コース集中講義の支援を行った。

### 4) その他

営農技術対策の提供や各種事業への助言など、農業者組織や関係機関・各種団体からの要請への支援等を行った。

## IV 試験研究および地域支援等活動の課題名

### 1. 花き野菜に関する試験

#### (1) 実需ニーズに対応した露地切り花の保鮮・出荷期調整技術の確立 (323281)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G

目的：しゃくやくおよびりんどうについて開花可能な収穫時期を明らかにするとともに、自然エネルギー等を活用した鮮度保持技術を開発する。

#### (2) 高温期の道外移出に対応した一年生切り花の品質管理技術 (213291)

試験期間：平成29～31年(令和元年)

担当 G：花き野菜G

目的：ひまわり、なでしこ、マトリカリア、スカビオサ、ブプレウムを対象として夏季に道外移出する際の品質管理技術を提示し、道内産地から出荷される切り花の品質を向上させる。

#### (3) 春どり栽培向け多収性いちご新品種の育成 (213351)

試験期間：平成30～32年(令和2年)

担当 G：花き野菜G、生産環境G

目的：春どり栽培用に「ゆきララ」並の果実品質を有する多収性いちご品種を育成する(目標収量：「ゆきララ」対比120%)。

#### (4) いちご新品種「ゆきララ」の安定生産に向けた栽培法の確立 (000000)

試験期間：平成30～32年(令和2年)

担当 G：花き野菜G、上川農試、道南農試

目的：いちごの新品種である「ゆきララ」の安定生産に向けて、果房数の確保や収穫初期の規格内収量を増加させる栽培法を確立する。

#### (5) 野菜地域適応性検定 (いちご) (213300)

試験期間：平成30～32年(令和2年)

担当 G：花き野菜G、上川農試、道南農試

目的：育成系統の各地域における適応性を検討し、新品種育成のための資料を得る。

#### (6) 保温装備と耐雪性を強化した北海道型ハウスの無加温周年利用技術の確立 (123491)

試験期間：平成29～30年

担当 G：花き野菜G、上川農試、道南農試

目的：ハウス周辺部への断熱資材埋設による地温上昇効果について評価する。

#### (7) 作業管理システム及び生育予測を核とした大規模施設園芸発展スキームの構築 (623381)

試験期間：平成29～31年(令和元年)

担当 G：花き野菜G

目的：次世代施設園芸北海道拠点におけるいちごの周年安定生産・出荷体制の確立に向け、いちごに対する局所加温および冷却の効果の検証と実証を行う。

#### (8) トマトにおける養液栽培システム「ういずOne」を用いた省力低コスト栽培法の確立 (513381)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G

目的：簡易養液栽培システムを利用し適正な栽培技術を明らかにする。

#### (9) 機械化栽培体系を想定した加工用トマトの栽培法の確立および品質評価と試作品の開発 (627581)

試験期間：平成29～31年(令和元年)

担当 G：花き野菜G、食品加工研究センター

目的：加工用トマトの機械化作業体系を検討し、省力化技術を確立する。

#### (10) 転換畑における加工用トマトの栽培管理技術と省力収穫技術の開発 (627581)

試験期間：平成30～32年(令和2年)

担当 G：中央農試、花き野菜G

目的：加工用トマト栽培技術とこれに向

けた圃場管理や省力作業収穫技術を開発する。

**(11) 道産メロンの冬季供給を可能とする長期貯蔵出荷体系の確立 (323281)**

試験期間：平成29～31年(令和元年)

担当 G：花き野菜G

目的：道産メロンの新たな需要の開拓と消費の拡大をすすめるため、長期貯蔵に対応した栽培管理技術を確立し、道産メロンの冬季流通システムを構築する。

**(12) 保温装備と耐雪性を強化した北海道型ハウスの無加温周年利用技術の確立 (123491)**

試験期間：平成29～30年

担当 G：花き野菜G、上川農試、道南農試

目的：ハウス周辺部への断熱資材埋設による地温上昇効果について評価する。

**(13) ブロッコリーの省力収穫を目指した品種特性の評価 (333392)**

試験期間：平成29～30年

担当 G：花き野菜G

目的：省力収穫に適したブロッコリー品種を選択する。

**(14) ニンニク在来系統の特性評価試験 (723372)**

試験期間：平成27年～31年(令和元年)

担当 G：花き野菜G

目的：北海道で収集された複数のニンニク在来系統に関する農業特性を評価し、情報を得ることで道内産のニンニク安定生産への資とする。

**(15) かぼちの茎葉処理機の開発 (727381)**

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G、中央農試

目的：かぼちの収穫作業の省力化を図るため、かぼちの茎葉処理機を開発するとともに、茎葉処理時に発生する打撲及び加圧が品質に与える影響を評価する。

**(16) MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度流通体系化実証 (119171)**

試験期間：平成27～31年(令和元年)

担当 G：生産環境G、花き野菜G

目的：MA包装資材による品質保持効果を活用した道産メロンの船便輸出の可能性について検討する。

**(17) 農業資材試験 (729400)**

試験期間：昭和40年～

担当 G：花き野菜G (各農試と分担)

目的：野菜に対する除草剤、生育調節剤の実用性を検討する。

## 2. 栽培環境に関する試験

**(1) 北海道における加工用トマトの肥効調節型肥料を用いた施肥技術の確立 (725302)**

試験期間：平成30～31年

担当 G：生産環境G

目的：肥効調節型肥料を利用し、寒冷地における地温および養分吸収に則した全量基肥の効率的施肥法を開発する。

**(2) 紫さつまいもの生育環境および貯蔵条件がアントシアニン含量・抽出効率に及ぼす影響の解析 (993301)**

試験期間：平成30年

担当 G：生産環境G

目的：加工・北海道産紫さつまいもの色価・アントシアニン含量の優位性を示すとともに、冷凍保管の可能性に関する知見を得る。

**(3) たまねぎ有機栽培における育苗培土の固化技術の開発 (研究開発推進費)**

試験期間：平成30年

担当 G：生産環境G

目的：有機栽培で使用できる培土の組成及び充填方法を検討し、有機栽培における培土固化技術を開発する。

**(4) 加工・業務用途に対応したたまねぎ貯蔵性の解析とエチレン処理による長期貯蔵技術の開発 (333393)**

試験期間：平成29～31年



担当 G：生産環境G

(426500)

目的：加工・業務用途のたまねぎの安定供給に向けて、移植栽培と直播栽培の貯蔵性の差異を明らかにするとともに、エチレン処理による長期貯蔵技術を開発する。

試験期間：昭和40年～

担当 G：生産環境G（各農試と分担）

目的：北海道が実施する土地改良事業計画に基づき、該当地域の土壌調査を実施する。

#### (5) 露地栽培加工用トマトの病害発生実態と疫病防除対策の確立 (216391)

試験期間：平成29～31年

担当 G：生産環境G

目的：道内の加工用トマト栽培における発生病害を整理するとともに、産地で実際に被害が問題となっている疫病について、施肥量の影響を含めた検討を行い、防除対策を確立する。

### 3. 病害虫に関する試験

#### (1) いちご春どり栽培の収益向上に寄与する多収性品種の育成 (213301)

試験期間：平成30～32年

担当 G：花き野菜G、生産環境G

目的：春どり栽培用に「ゆきキラ」並の果実品質を有する多収性いちごの育種に係る、選抜系統の病害（疫病・萎黄病・萎凋病）抵抗性を検定する。

#### (6) トマトにおける養液栽培システム「ういずOn e」を用いた省力低コスト栽培法の確立 (513381)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G、生産環境G

目的：発泡トロ箱を用いた簡易養液栽培システムを利用してトマト栽培を行うため、苗の種類、仕立て法、給液量、培土の連用等を検討し、適正な栽培技術を明らかにする。

#### (2) 露地栽培加工用トマトの病害発生実態と疫病防除対策の確立 (216391)

試験期間：平成29～31年

担当 G：生産環境G

目的：道内の加工用トマト栽培における発生病害を整理するとともに、産地で実際に被害が問題となっている疫病的防除対策を確立する。

#### (7) MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度流通体系化実証 (119171)

試験期間：平成27～31年

担当 G：生産環境G、花き野菜G

目的：MA包装資材による品質保持効果について、グリーンアスパラガスとスイートコーンの首都圏等への移出における効果の検証と活用方法を明らかにする。

#### (3) 低濃度エタノールを用いた土壌還元作用による高設栽培いちごの培土消毒法の開発 (326391)

試験期間：平成29～31年

担当 G：生産環境G

目的：いちごの高設栽培に用いた培土を充填したまま再利用するため、人や周囲の作物に影響を及ぼすリスクの少ない、低濃度エタノールを用いた土壌還元作用による消毒法を開発する。

#### (8) 農作物病害虫診断試験 ②生理障害診断試験 (216500)

試験期間：昭和50年～

担当 G：生産環境G（各農試と分担）

目的：農業改良普及センター、農政部普及指導員を通じて現場に診断を依頼される農作物の生理障害を迅速に診断して、被害を最小限にとどめるための適切な対策を示す。

#### (4) 農作物病害虫診断試験 ①突発及び病害虫診断試験 (216500)

試験期間：昭和50年～

担当 G：生産環境G（各農試と分担）

目的：突発的に発生する病害虫による被害を防止するため、それらの診断を行うと共に、道内で新たに発生した病害虫の情報を記録し、

#### (9) 農業農村整備事業等に係る土壌調査

蓄積する。

(5) 農業資材試験 殺菌・殺虫剤 (729400)

試験期間：昭和45年～

担当 G：生産環境G（各農試と分担）

目的：新しい殺菌剤および殺虫剤の花き・野菜の病害虫に対する防除効果と薬害の有無ならびにその実用性を検討する。

(6) 病害虫発生予察調査 (426500)

試験期間：昭和16年～

担当 G：生産環境G（各農試と分担）

目的：各地の病害虫発生状況と気象等を踏まえて病害虫の発生を予察し、効率的な防除に資する。当场ではねぎの病害および各種害虫の誘殺状況を調査する。

#### 4. 技術体系化に関する試験

本年は該当なし

#### 5. 地域支援に関する試験等

(1) 赤肉メロン品種「おくり姫」の普及促進に向けた栽培実証

(319971)

試験期間：平成30～31年

担当 G：技術研修G

目的：メロンハウス抑制栽培を対象にして、「おくり姫」の特性を活かした栽培実証を行い、地域への品種の普及を促進する。

## V 研修事業の概要

### 1. 概要

本道における花き・野菜の生産振興を支援するため、新技術（品種）の迅速な普及定着や生産を担う人材の育成等を目的とした技術研修を実施した。

### 2. 研修事業の推進

北海道花き・野菜技術研修に対する理解を深めるため、農政部関係課・農業高校・農業改良普及センター、市町村等への訪問、農業関係団体主催会議にて事業説明を実施した他、場内に専門委員会（研修事業運営委員会）を設置し、計画の策定、事業の円滑な実施・運営等について検討・調整を行った。

#### (1) 研修事業説明の経過

- 1) 4月13日  
市町村等訪問（厚真町、安平町）
- 2) 4月21日  
市町村等訪問（上川総合振興局、鷹栖町、上川農業改良普及センター）
- 3) 4月26日  
市町村等訪問（豊浦町、伊達市、胆振総合振興局、胆振農業改良普及センター）
- 4) 5月9日  
高等学校校長協会農業部会
- 5) 5月12日  
市町村等訪問（空知総合振興局、空知農業改良普及センター本所）
- 6) 6月16日  
市町村等訪問（豊浦町、伊達市、苫小牧市、安平町）
- 7) 7月17日  
道公社地区別推進会議（苫小牧市）
- 8) 7月18日  
道公社地区別推進会議（当麻町）
- 9) 7月19日  
道公社地区別推進会議（北見市）
- 10) 7月26日  
道公社地区別推進会議（八雲町）
- 11) 7月25日  
道公社地区別推進会議（芽室町）
- 12) 7月24日  
道公社地区別推進会議（釧路市）
- 13) 7月13日  
道公社地区別推進会議（岩見沢市）  
市町村等訪問（空知総合振興局）
- 14) 9月28日  
滝川市研修・研究に係る視察と意見交換会
- 15) 10月13日  
新農業人フェア
- 16) 1月28日  
新規参入予定者（ベーシックセミナー）
- 17) 2月20日  
空知管内市町村等訪問
- 18) 2月21日  
空知管内市町村等訪問
- 19) 2月26日  
新技術セミナー

#### (2) 事業課との打合せ

- 1) 8月30日～31日  
相手方：道農政部農業経営課、農産振興課、技術普及課  
場 所：花・野菜技術センター  
内 容：技術研修事業視察及び打合せ

#### (3) 専門委員会開催内容

- 1) 研修事業運営委員会の構成（平成30年4月現在）  
委員長：福川英司（技術研修G研究主幹）  
副委員長：植野玲一郎（技術研修G）  
委 員：横尾修・市川雅一（総務課）、  
大宮知・黒島学・大久保進一（花き野菜G）、後藤英次・佐々木純（生産環境G）  
オブザーバー：宮町良治（上席普及指導員）、小林孝夫（主任普及指導員）  
事務局：山井雅之・高橋英樹（技術研修G）
- 2) 開催内容
  - ① 第1回委員会（12月17日）
    - ア) 協議事項
      - ・ベーシックセミナーについて
      - ・新技術セミナー2019について

- ・平成31年度課題解決研修について
- ・研修事業運営委員会の構成について

イ) 報告事項

② 第2回委員会 (1月31日)

ア) 協議事項

- ・新技術セミナー2019について
- ・平成31年度課題解決セミナーについて

イ) 報告事項

③ 第3回委員会 (3月25日)

ア) 協議事項

- ・平成31年度総合技術研修カリキュラムについて
- ・平成31年度研修事業計画(案)について
- ・平成31年度課題解決研修(案)について
- ・平成31年度市民園芸セミナーについて

イ) 報告事項

- ・平成31年度総合技術研修受講希望状況
- ・平成31年度専門技術研修受講希望状況
- ・花・野菜新技術セミナー2019開催結果

### 3. 北海道花き・野菜技術研修

#### (1) 専門技術研修

生産者、技術指導者を対象に、高度な専門技術の習得を目的に、課題解決や各種分析技術等についての個別指導を行った。

1) 専門技術研修受講者数

区 分	受講者数
花き栽培コース	—
野菜栽培コース	3名
土壌肥料コース	4名
病害虫コース	2名
土壌肥料及び病害虫コース	2名
合 計(延べ)	11名

2) 専門技術研修受講者及び研修内容

氏 名	所 属	期 間	主な研修内容
金子悠稀	ホクレン 肥料(株)	5/14～5/25	野菜栽培管理
山田和樹	ホクレン 肥料(株)	5/14～5/25	野菜栽培管理
松田義則	(株)夕張	6/11～6/15	土壌肥料・病害虫コー

	ツムラ		ス
若狭一紅	(株)夕張 ツムラ	6/11～6/15	土壌肥料・病害虫コー ス
増永 達	ホクレン	6/11～8/24	野菜栽培管理
石崎俊博	ホクレン	6/25～7/6	土壌肥料管理
二宮 啓	ホクレン	6/25～7/6	土壌肥料管理
川村友亮	ホクレン	6/25～7/6	病害虫管理
丹羽悠登	ホクサン (株)	6/25～7/6	病害虫管理
宮森 祐	拓殖短大	11/8～9	いちご等の作物体分析
白木魁人	拓殖短大	11/8～9	いちご等の作物体分析

#### (2) 総合技術研修

生産者、技術指導者を対象に、基礎知識から実践技術までの習得を目的に編成したカリキュラムに基づき総合的な指導を行った。

- 1) 期間 4月10日～10月5日
- 2) 受講者数 野菜コース 2名
- 3) 総合技術研修の受講者

氏 名	所属等	備 考
大森慎一郎	弟子屈町	野菜コース
沼田雅敏	月形町	野菜コース (4/23～6/29)

4) 総合技術研修の実施内容

区分	主な内容(講師)	時 間
講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌肥料(後藤主査(生産環境G))</li> <li>・病害虫防除(岩崎研究主幹(中央農試)、美濃研究主幹、佐々木主査、白井研究主査(生産環境G))</li> <li>・施設資材利用等(外部講師)</li> <li>・主要野菜栽培技術(黒島主査、木村研究主任、宮町上席普及指導員(技術普及室)、福川研究主幹、柳田主査、植野主査(技術研修G))</li> <li>・雑草防除の基礎(外部講師)</li> <li>・野菜の流通と野菜システム(宮町上席普及指導員(技術普及室))</li> <li>・青果物鮮度の内部品質と保持(田丸研究主査(生産環境G))</li> </ul>	計69時間

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営管理(外部講師)</li> <li>・農業金融制度(空知総合振興局)</li> <li>・その他(川岸研究部長、宮町上席普及指導員(技術普及室)、稲川研究主幹(中央農試))</li> </ul>	
演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要野菜栽培等(木村研究主任、宮町上席普及指導員(技術普及室)、福川研究主幹、柳田主査、植野主査(技術研修G))</li> <li>・土壌診断(野田研究主査(生産環境G))</li> <li>・病虫害防除技術(岩崎研究主幹(中央農試)、美濃研究主幹、佐々木主査(生産環境G))</li> <li>・園芸資材利用法(外部講師)</li> <li>・雑草防除技術(外部講師)</li> <li>・ハウス組立(柳田主査、玉川主任他(技術研修G))</li> <li>・作業機械操作実習(玉川主任他(技術研修G))</li> </ul>	野菜110時間
実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要野菜の栽培管理(野菜15品目(講師は講義・実習と同じ))</li> </ul>	野菜 491時間
その他	卸売市場、先進農家等	野菜 24時間
	ミーティング、栽培計画書作成、報告書作成等	野菜 153時間
合計		野菜 847時間

### (3) 基礎技術研修(ベーシックセミナー)

花き及び野菜栽培を志向する新規就農者等の支援を目的に花・野菜栽培に関する基礎知識や技術についての指導を行った。

#### 1) 期間

1月28日～2月1日(5日間)

#### 2) 受講者数

野菜コース 22名

花きコース 6名

#### 3) 基礎技術研修の実施内容

講義名	時間	講師
花き・野菜栽培概論	花き 1時間 野菜 1時間	大宮主査(花き野菜G) 黒島主査(花き野菜G)
主要品目の栽培技術	花き 14時間	鳥越研究主幹、黒島主

野菜 14時間	査、大宮主査、大久保主査、柳田研究主任、木村研究主任、(花き野菜G)、野田研究主査(生産環境G)、宮町上席普及指導員、鹿野主任普及指導員(技術普及室)、福川研究主幹、植野主査(技術研修G)
土壌改良と施肥管理	2時間 後藤主査(生産環境G)
病虫害	2時間 佐々木主査(生産環境G)
園芸施設資材の特性と利用技術	2時間 外部講師
花きの流通と内部品質	2時間 植野主査(技術研修G)
野菜の流通と内部品質	2時間 田丸研究主査(生産環境G)
農地制度の基礎	2時間 外部講師
経営管理概論	3時間 外部講師
新規就農者の経営事例	2時間 農業者ほか
北海道の新顔野菜	2時間 外部講師
花・野菜技術センターの概要、技術開発と普及	1時間 桑名場長、宮町上席普及指導員(技術普及室)
	花き野菜各32時間

### (4) 課題解決研修

農業試験場が開発した技術や品種の迅速な普及定着、生産技術の高位平準化、産地の育成等を目的とした各種セミナーの開催や短期受け入れ研修を実施した。

#### 1) いちご「ゆきララ」フィールドセミナー

道内におけるいちごの安定生産と花・野菜技術センター育成のいちご新品種「ゆきララ」の普及に資するため、育成譲渡普及担当機関などが「ゆきララ」に関する取組および産地の状況について、情報および意見交換を実施した。

◇日 時 平成30年4月24～25日

◇場 所 花・野菜技術センター講堂及びほ場

◇内 容

① 「ゆきララ」の特性と普及に向けた取り組みについて

講師：花・野菜技術センター

研究主任 木村文彦

② 「ゆきララ」の試作状況と担当地域の現状と課題について

- ・石狩農業改良普及センター
- ・胆振農業改良普及センター
- ・渡島農業改良普及センター
- ・上川農業改良普及センター
- ・ホクレン農業協同組合連合会販売推進部くるるの杜

③ 「全体討議」

- ・「ゆきララ」の普及について
- ・春どりいちごの生産動向等について

④ いちご試験ほ場における現地検討

◇受講者数 45名

2) フォローアップセミナー

花き・野菜技術研修の過年度修了者を対象に、技術支援と研修修了者・現研修生の情報交流を目的に開催した。

◇日時 平成30年6月22日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容

- ・研究概要の紹介
- ・研修圃場の紹介
- ・意見交換

◇受講者数 28名

3) 加工用にんじんセミナー2018

今後の北海道産にんじんの生産振興に資するため、品種開発、生産、実需サイドそれぞれから情報交換を行う「加工用にんじんセミナー2018」を開催した。

◇日時 平成30年11月6日

◇場所 花・野菜技術センター

◇内容

・講演会

① 「加工用にんじんの品種特性について」

講師：十勝農業試験場地域技術G  
主査(畑作園芸) 田縁勝洋氏

② 「育成元からの情報提供」

講師：ベジヨー・ジャパン(株)  
セールスマネージャー 奈良政俊氏

講師：ホクレン農業総合研究所

園芸作物開発課 本村洋一氏

・ほ場見学

・事例報告・講演

③ 「加工業務用にんじんの産地事例報告」

講師：士幌町農業協同組合  
農産課農産係長 井尾 諭氏

講師：美瑛町農業協同組合

販売部生産振興課 平間尚貴氏

④ 「後志におけるにんじん生産性向上を目指した普及活動」

講師：後志農業改良普及センター  
普及指導員 坂内泰輔氏

⑤ 「加工業務用野菜をめぐる情勢報告」

講師：北海道農政部生産振興局

農産振興課主査 森 修治氏

⑥ 「実需から見た加工業務用にんじんに期待すること」

講師：メディカル青果物研究所

開発室副室長 服部 玄氏

・パネルディスカッション

◇受講者数 79名

4) 北海道アスパラガスフォーラムin美幌

北海道のアスパラガス生産振興に資するため、道総研が研究開発し、現地への普及定着が進みつつある伏せ込み栽培技術を中心とした生産全般の話題を紹介し、現地導入事例発表を行うフォーラムについて、美幌町と共同で開催した。

◇日時 平成30年11月29～30日

◇場所 美幌町民会館「びほ～る」

現地視察

◇内容

① 「北海道におけるアスパラガス栽培の現状について」

講師：上川農業試験場地域技術G  
主査(畑作園芸) 地子 立氏

② 「アスパラガスの茎葉管理が光合成産物の転流に与える影響について」

講師：農研機構九州沖縄農研センター  
上級研究員 渡辺慎一氏

③ 「アスパラガスの連作障害について」

講師：酪農学園大学  
教授 園田高広氏

④ 「アスパラガスの不耕起連作栽培について」

講師：香川県農業試験場

主席研究員 池内隆夫氏

- ・パネルディスカッション
- ・現地視察：美幌町内2箇所

◇受講者数 242名

#### 5) 北海道加工用トマトセミナー

加工用トマトの水田営農地帯での作付け拡大をはかるために、道内における産地の現状と機械化栽培体系に向けた取組み、先進地域での試験研究や生産現場の取組みについて情報交換等を行うために開催した。

◇日 時 平成31年2月25日

◇場 所 自治労会館

◇内 容

- ①「道内における加工用トマトの実態と普及の取組み」

講師：空知農業改良普及センター北空知支所  
専門主任 高橋義之

- ②「道内における加工用トマト機械化栽培体系に向けた試験研究の取組み」

講師：花・野菜技術センター  
研究主幹 鳥越昌隆

- ③「加工用トマトの現状」

講師：全国トマト工業会  
専務理事 堤 隆

- ④「加工用トマト収穫作業の軽労化に向けた試験研究の取組み」

講師：宮城県農業・園芸総合研究所  
主任研究員 小池 修

- ⑤「カゴメにおける加工用トマト機械化栽培体系の取組みについて」

講師：カゴメ株式会社

◇受講者 106名

#### 6) 花・野菜新技術セミナー2019

平成30年度に新たに開発した野菜の新品種や栽培技術などの研究成果について速やかな普及定着を図るため、農業関係者に対するセミナーを開催した。

◇日 時 平成31年2月26日

◇場 所 たきかわ文化センター

◇内 容

- ・新技術伝達

- ①「一斉収穫を目指せ！ブロッコリーの品種特性」

講師：花・野菜技術センター

研究主任 柳田 大介

- ②「しゃくやくの出荷期間を延長する切り花貯蔵技術」

講師：花・野菜技術センター

主査(花き) 大宮 知

- ③「りんどうの需要期出荷に向けた切り花出荷調節技術」

講師：花・野菜技術センター

主査(花き) 大宮 知

- ④「加工しても美味しい、北海道産さつまいも」

講師：花・野菜技術センター

研究主査 野田智昭

- ⑤「日照りに負けない！たまねぎイキイキ地下かんがい」

講師：花・野菜技術センター

主査(栽培環境) 後藤英次

- ⑥「有機野菜の施肥は「TORVE(トルベ)」で決めてしっかり穫るべ！」

講師：中央農業試験場

主査(土壌生態) 櫻井道彦氏

- ⑦「紫外光(UV-B)を用いたいちごの新しい病虫害防除法」

講師：花・野菜技術センター

主査(病虫) 佐々木純

- ⑧「発泡箱でトマトづくり！簡易養液栽培法のポイントは？」

講師：花・野菜技術センター

主査(栽培環境) 後藤英次

- ・農業改良普及センターからの調査研究事例の紹介

「養液栽培システム「ういずOne」の上川地域における普及事例について」

講師：上川農業改良普及センター

地域第三係長 田下浩二氏

◇受講者 107名

#### (5) 市民セミナー

消費者等を対象に、道産の花・野菜及び当センターに対する理解を深めることを目的とした各種セミナーを開催した。

- 1) 市民園芸セミナー

◇日 時 平成30年5月8日  
 ◇場 所 花・野菜技術センター  
 ◇内 容  
 ・講義「上手な野菜づくり～さつまいも栽培にチャレンジしよう!～」  
 講師：北海道農政部技術普及課  
 上席普及指導員 宮町良治

◇参加者数 30名

2) フラワーデザインセミナー

◇日 時 平成30年8月3日  
 ◇場 所 花・野菜技術センター  
 ◇内 容  
 ・フラワーアレンジメント教室  
 講師：池坊光明流清美会  
 向井一恵氏、山本寛子氏

◇参加者数 24名

1) JICA研修員受入事業（滝川市国際交流事業）

◇日 時 平成30年8月20日  
 ◇場 所 花・野菜技術センター  
 ◇内 容 花・野菜技術センターの概要、試験研究と普及事業との連携等  
 ◇参加者数 8名（モザンビーク共和国）

2) 農業大学校（稲作経営専攻コース）研修生受入

◇日 時 平成30年9月5日～9月7日  
 ◇場 所 花・野菜技術センター  
 ◇内 容 花・野菜技術センターの概要等  
 ◇参加者数 7名

3) JICA草の根技術協力事業（滝川市国際交流事業）

◇日 時 平成30年8月20日  
 ◇場 所 花・野菜技術センター  
 ◇参加者数 4名（モンゴル国研修生）  
 ◇内 容 花・野菜技術センターの概要等

(6) その他の研修

4. 研修ほ場等作付概要

区分	品目	品種	作型
	ほうれんそう	・フライトン、ネオサイクロン、カイト、スーパートニック	・雨よけ春夏まき
		・晩抽サンホープ、トリトン、晩抽サマースカイスーパートニック	・雨よけ夏まき
	だいこん	・貴宮、晩々G、蒼の砦	・春まき
	スイートコーン	・ゴールドラッシュ、ゆめのコーン、ピュアホワイトドルチェドリーム	・露地直はん
	メロン	・ルピアレッド、摩周レッド、オトメの祈り、レッド113	・無加温半促成
	ミニトマト	・アイコ、キャロル10	・ハウス夏秋どり
	アスパラガス	・スーパーウエルカム、ガインリム、ゼンユウガリバー	・春どり露地(定植6年目)
		・ウエルカム、ガインリム	・ハウス立茎栽培

注) 総合技術研修共通栽培品目のみ掲載。



## VI 研究発表並びに普及事項

### 1. 研究報告・資料

#### (1) 研究報告

○A. Uragami, R. Ueno, K. Matsuo, T. Yamaguchi, H. Sakai, S. Motoki, T. Takizawa, H. Tokiwa, T. Ikeuchi, S. Watanabe, Y. Shinzato, K. Matsunaga, H. Kitazawa, A. Yamasaki. Contribution of total nitrogen content in storage roots to multiple regression analysis for estimating yield of asparagus in rootstock-planting forcing culture (Proceedings of the XIV International Asparagus Symposium). Acta Horticulturae. 1223 (Nov 2018). 73-76 (2018).

○大久保進一・東出忠桐・金子壮・安場健一郎・大森弘美・中野明正. トマト一段密植栽培における葉数の違いが収量に及ぼす影響. 北海道立総合研究機構農業試験場集報. 103:7-12 (2018).

○熊谷聡・長濱恵・白井佳代・美濃健一・日向貴久. 水稻の化学肥料・化学合成農薬50%削減栽培における高度化技術の評価. 北農. 85:241-248 (2018).

○黒島学. 短日屋令育苗によるシネンシス系デルフィニウムの切り花品質の工場. 園芸学研究. 17:251-257 (2018).

○白井佳代. 北海道のミニトマト栽培におけるトマト斑点病の発生実態と薬剤の防除効果. 植物防疫. 73:91-95 (2019).

○三澤知央・美濃健一. ネギリゾクトニア葉鞘腐敗病に対する2種殺菌剤の防除効果. 北日本病害虫研究会報. 69:42-44 (2018).

#### (2) 口頭発表

○大森慎一郎・植野玲一郎・福川英司. 弟子屈町特産「摩周メロン」品種「摩周レッド」および「オトメの祈り」の品種特性. 北海道園芸研究談話会報. 52:21-22 (2019).

○帰山敏亮・森志郎・大宮知. ユリ「きたきり」の球根養成における凍結前後の温度が新球形成に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 52:12-13 (2019).

○柏谷太亮・木村文彦・黒島学. 少灌水と摘花処

理がイチゴ「ゆきララ」の生育および収量に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 52:21-22 (2019).

○木村文彦・柏谷太亮・黒島学. イチゴ「ゆきララ」の定植期および苗質が生育・収量に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 52:18-19 (2019).

○白井佳代・三澤知央・佐藤豊三. *Colletotrichum nigrum* Ellis & Halsted によるトマト炭疽病の発生 (病原追加). 日本植物病理学会報. 85:227 (2019).

○菅原章人・江原清. キュウリにおける整枝法(つり上げ栽培・つる下ろし栽培)別の収量・品質・作業時間. 北海道園芸研究談話会報. 52:21-22 (2019).

○千田智子・北藤吉浩・鳥越昌隆. 加工用トマト栽培における株間の違いが収量等に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 52:21-22 (2019).

○鳥越昌隆・江原清・大久保進一. 加工用トマトにおける育苗および気象条件が開花に与える影響. 園芸学会春季大会 (2019. 3. 23-24).

○根川千枝・佐藤豊三・川部眞登・美濃健一・高橋好範・中島正明・廣岡裕吏. *Didymella* sp. によるトウキ斑点病 (新称). 日本植物病理学会報. 85:54 (2019).

○古山真一・大久保進一. 積雪地帯の厳冬期無加温栽培におけるパイプハウス周縁部への地中断熱処理がハウス内の温度に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 52:16-17 (2019).

○吉田慎一・野田智昭. MAフィルムを利用したブロッコリーの輸送技術開発. 第56回全日本包装技術研究大会 (2018. 11. 21-22).

#### (3) 著書・資料

○植野玲一郎. いちごほか. “北海道野菜地図 (その42)”. 北海道野菜地図編集委員会編. 北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会 (2019).

○江原清. 農業体験受け入れQ&A集 III 部道内主要農産物 かぼちゃ. 北海道協同組合通信社編. 同発行 (2018). (ニューカントリー 2018年夏季臨時増刊

号).

○大久保進一. 農業体験受け入れQ&A集 Ⅲ部道内  
主要農産物 トマト. 北海道協同組合通信社編. 同  
発行(2018). (ニューカントリー 2018年夏季臨時増  
刊号).

#### (4) 専門雑誌・記事等

○植野玲一郎. 冬野菜セミナー 2018. 農家の友.  
70(5): 40-42(2018).

○植野玲一郎. 北海道さつまいも懇話会 現地見  
学会 2018 in 道南. 農家の友. 70(11): 36-39(2  
018).

○植野玲一郎. 加工用ニンジン栽培に取り組もう  
～加工用にんじんセミナー 2018～. 農家の友.  
71(2): 38-40(2019)

○鳥越昌隆. なるほど新技術 生分解マルチ資材.  
ニューカントリー. 65(6): 56-57(2018).

○鳥越昌隆. 技術特集 加工・業務用野菜をどうつ  
くる. ニューカントリー. 65(10): 10-12(2018).

○鳥越昌隆. スイートコーンにおける生分解性マ  
ルチ資材の特性と評価. 農耕と園芸. 9月号. 17  
-20(2018).

○野田智昭. 道産さつまいも栽培に適した施肥法  
ニューカントリー. 65(12): 54-55(2018).

○野田智昭. 北海道のブロッコリー移出へのMAフ  
ィルム活用の検討. 月刊「機能材料」. 12月号.  
28-34(2018).

○柳田大介. 「札幌黄」の安定生産に向けた技術  
実証. 農家の友. 71(2): 45-47(2019).

#### (5) 新聞記事・広報誌、放送等

○大久保進一. 北海道の「食」が地域経済を支え  
る「トマト・ミニトマト」. 月刊クオリティー.  
7月号. 76-77(2018).

○柳田大介. とろ～り甘い! 幻のたまねぎ「札幌  
黄」. NHK総合「うまいッ!」(2018.10.28).

#### (6) 出願公表

該当なし

#### (7) 品種登録

該当なし

#### (8) 受賞

○吉田慎一・野田智昭. MAフィルムを利用したブ  
ロッコリーの輸送技術. 第56回全日本包装技術研  
究大会輸送包装部会優秀発表(2018).

## 2. 印刷刊行物

該当なし

## 3. 普及事項

### (1) 普及奨励事項

該当なし

### (2) 普及推進事項

該当なし

### (3) 指導参考事項

○切り花貯蔵によるしゃくやくの出荷期間延長技  
術

○りんどうの需要期に向けた切り花貯蔵技術

○一斉収穫に適したブロッコリーの品種特性

○養液栽培システム「ういずOne」を用いた6月定  
植におけるミニトマトおよび大玉トマトの栽培法

○にんじんの黒葉枯病に対する銅(塩基性硫酸銅)  
水和剤Fの効果

○にんじんの黒葉枯病に対するピリベンカルブ水  
和剤DFの効果

○たまねぎの白斑葉枯病に対するイソフエタミド  
水和剤Fの効果

○たまねぎの白斑葉枯病に対するインピルフルキ  
サム水和剤F(未登録)の効果

○たまねぎの白斑葉枯病に対するピコキシストロ  
ピン水和剤F(15日間隔散布)の効果

○たまねぎの白斑葉枯病に対するマンデストロピ  
ン水和剤F(未登録・15日間隔散布)の効果

○たまねぎの白斑葉枯病に対するメトコナゾール  
水和剤の効果

○たまねぎの灰色腐敗病に対するTPN水和剤F(53  
%)の効果

○たまねぎの小菌核病に対するインピルフルキサ  
ム水和剤F(未登録)の効果

○すいかのうどんこ病に対するフルチアニル・メ  
パニピリム水和剤Fの効果

○メロンのうどんこ病に対するフルチアニル・メ  
パニピリム水和剤Fの効果

○ブロッコリーのアブラムシ類に対するクロチア  
ニジン粒剤（施用量変更）の効果

#### **(4) 研究参考事項**

該当なし

## Ⅶ その他

### 1. 職員の研修

#### (1) 職場外研修（階層別、能力開発）

受講者	研修項目	実施機関	場所	期間
柏谷 太亮	新規採用職員研修	道総務部	札幌市	30. 4. 18 ~ 30. 4. 20
山井 雅之	再任用職員研修	道総務部	岩見沢市	30. 6. 26 ~ 30. 6. 26

#### (2) 職場研修等（集合・伝達研修）

研修等	実施月日	内 容	人数
伝達研修(交通安全)	4/16	職員の人身事故に対する処分方針	30人
伝達研修(交通安全)	6/ 8	職員の飲酒運転根絶に向けた取組	30人
職場研修(危機管理)	5/24	ハラスメント、交通安全、灯油確認	30人
職場研修(農作業安全)	5/24	農作業安全研修	30人
伝達研修(交通安全)	11/27	交通事故・違反の防止	30人
職場研修(救命講習)	12/ 4	AED講習	28人
伝達研修(危機管理)	12/25	交通安全、飲酒運転、灯油確認	30人
伝達研修(情報セキュリティ)	1/21	情報セキュリティ（自己点検）	30人

### 2. 見学・参観

月日	団 体 名	人数
6/21	北海道立農業大学校 農業経営研究科	4
6/28	恵庭市農業委員会	13
7/4	京極町4Hクラブ	12
7/9	JA北ひびき剣淵 女性部 (剣淵町)	10
7/13	十勝農業共済組合	16
7/20	川西畑作振興会 (士別市)	15
7/26	拓殖大学北海道短期大学	56
8/10	JAきたそらち資材推進課 (深川市)	3
8/20	JICAモザンビーク国別研修 「農業技術促進を通じた農村開 発セミナー」	11
8/21	国営妹背牛地区換地委員会	24
8/24	北海道養液栽培研究会	45
9/13	新篠津農業塾 (新篠津農業センター)	14

月日	団 体 名	人数
9/19	北海道種苗協同組合	25
9/26	栗山町農業振興公社	12
9/27	広島県立西条農業高等学校	30
10/23	JICA(キルギス共和国)	5
11/13	北部上川農業委員会協議会	25
12/10	中国吉林省農業農村庁訪日交流 視察	5

月	団体数	人 数
4月	0	0
5月	0	0
6月	2	17
7月	5	109
8月	4	83
9月	4	81
10月	1	5
11月	1	25
12月	1	5
1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0
合計	18団体	325人

### 3. 研修生の受入れ（研修事業以外）

#### (1) 普及指導員研修

##### 1) 専門技術研修（野菜） 7/2～7/6

研修項目	対象者	担当
主要野菜の現場対応に必要な課題解決手法の習得	空知(北空知) 高橋義之 胆振(東胆振) 小川洋平 檜山(本所) 若杉行盛 上川(大雪) 中野寛之 網走(本所) 小森基文 十勝(北部) 小田元太 農業大学校 荻原敦史	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

##### 2) 専門技術研修（花き） 7/2～7/6

研修項目	対象者	担当
主要花きの現場対応に必要な課題解決手法の習得	上川(本所) 黒川太郎 農業大学校 竜滝 剛	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

##### 3) 高度専門技術研修（花き）

6/18～6/22, 7/23～7/27, 9/3～9/7

研修項目	対象者	担当
花き栽培に係る新技術および調査研究手法の習得	石狩(北部) 大平 誠 檜山(本所) 斎田純子 網走(美幌) 小澤 徹	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

##### 4) 新任者早期養成研修（新任者Ⅱ）

11/7～11/9

研修項目	対象者	担当
自己課題研修の進度確認と普及指導能力の向上	空知(南西部) 栗山賢門 ほか新任2年目の普及職員17名	技術普及課 技術普及室

### 4. 委員会活動

#### (1) 各専門委員会の名簿

(平成30年4月1日現在)

##### ア. 業務委員会

福川英司（委員長）、岩橋広樹（総務課）、江原 清（花き野菜G）、田丸浩幸、白井佳代（生産環境G）、南 貴夫、北 和宏（技術研修G）

##### イ. 環境整備委員会

鳥越昌隆（委員長）、岩橋広樹（総務課）、後藤英次（生産環境G）、植野玲一郎、寺口佳孝

（技術研修G）

##### ウ. 情報・図書委員会

美濃健一（委員長）、市川雅一（総務課）、柏谷太亮（花き野菜G）、後藤英次（生産環境G）、高橋英樹（技術研修G）、佐々木純（システム委員）

##### エ. 研修事業委員会

V 研修事業の概要参照

#### (2) 各専門委員会の活動

##### 1) 業務委員会

###### ア. 業務委員会の開催

- (ア) 通常：4月5日～11月28日、毎週1回
- (イ) 冬期：11月30日～3月29日、毎月1回
- (ウ) 拡大：4月20日

###### イ. 主な検討事項

- (ア) 週間・月間作業計画
- (イ) ほ場、ハウス、温室等施設の利用計画
- (ウ) ほ場の整備工事（排水路、暗渠）
- (エ) ハウスの張り替え計画
- (オ) その他

###### ウ. 主催行事

- (ア) 蒔付祝い 6月29日
- (イ) 収穫祭 10月26日

##### 2) 環境整備委員会

ア. 庁舎前花壇：マリーゴールド他（7/19）、チューリップ（10/26）の定植

イ. 旧十勝道路沿い：ハマナス、アジサイ等の除草、冬囲い

ウ. その他敷地内：防風林剪定、枯木の除去

##### 3) 情報・図書委員会

###### ア. 情報図書委員会の開催

- ・第1回情報図書委員会(平成30年4月27日)：活動・予算計画
- ・第2回情報図書委員会(平成31年3月20日)：活動の総括、次年度への懸案事項、年報原稿依頼、見学案内原稿依頼

###### イ. 見学案内に関する事

- ・見学案内資料の作成
- ・見学案内リハーサル開催(6月11日)
- ・普及センター等への参加呼びかけ
- ・ハウス群の試験内容の掲載徹底

###### ウ. 場の広報に関する事

- ・平成 29 年度年報の作成と公開。
  - ・ロビー設置ポスターおよびちらしの展示・更新（技術研修Gに実施いただいた）
- エ. 法人情報システム（含むホームページ）の管理・運営に関すること
- ・HPの更新（研修情報他広報関連 12 回、事務関連 2 回の合計 14 回更新）
  - ・場代表アドレスの管理（研究部長対応）
- オ. 図書の整備（購入）および管理に関すること。
- ・図書資料の受け入れ
  - ・図書資料の購入  
「Agricultural Bioinformatics」
  - ・雑誌類や成績書の簡易製本の実施
- ※成績書および定刊等の製本は実施年（2 年に一度）ではないため不実施

## 5. 公開デー 2018 の実施

8 月 3 日（金）に実施。

（来場者数：233 名）

### (1) 屋内会場の催し物

- フラワーデザインセミナー（技術研修G）
- 花の色を変える実験（花き野菜G）
- 病害虫診断コーナー（生産環境G）
- 土壌診断コーナー（生産環境G）
- 園芸相談コーナー（技術普及室）
- パネル展示コーナー
- YES!clean展示
- 園芸関係書籍販売コーナー（農文協）
- 展示温室：ゴーヤ、メロン、ピーマン、花壇苗、トマト、オクラ、ズッキーニ、なす等

### (2) 屋外会場の催し物

- メロン品種の試食（花き野菜G）
- 苗当てクイズ（花き野菜G）
- 農業機械展示（技術研修G）
- リクガメふれあいコーナー
- 飲食及び農産加工品直売コーナー  
・滝川食と農を考える女性の会
- バスによる圃場見学
- 研修生による生産物の販売

## 6. 講師等の派遣

- 植野玲一郎. メロン「おくり姫」の普及状況と

栽培のポイントについて. メロンサミット会(2018.12.12).

○植野玲一郎. 花野技セ育成メロン品種「おくり姫」の特徴について. JAようていメロン生産組合栽培講習会(2019.3.12).

○大久保進一. 養液栽培システム「ういずOne」を利用したトマトの栽培技術. ①ミニトマトおよび大玉トマトの栽培法. 「ういずOne」栽培講習会. 上川農業改良普及センター(2019.2.28).

○木村文彦. 「ゆきララ」の特性と普及に向けた取り組みについて. いちご「ゆきララ」フィールドセミナー(2018.4.24-25).

○木村文彦. 北海道でのイチゴ生産と取組について. 施設園芸シンポジウムー日本における施設園芸技術開発の動向と極東ロシアとの連携の可能性(2019.1.31)

○木村文彦. イチゴの品種について. 北海道種苗協同組合冬季研修会(2019.2.20).

○鳥越昌隆・黒島学. 花・野菜技術センターの試験の取り組みについて. 北海道キングメルター会生産者研修会(2018.12.4).

○野田智昭. 施設を利用した予冷、貯蔵による農産物の鮮度保持. 北海道立農業大学校(2018.10.30).

○柳田大介. 北海道産タマネギ栽培の省力化・高品質化に向けた作業技術の開発. グリーンテクノバンク北方系機能性植物研究会(2018.10.30).

○柳田大介. ブロッコリー品種特性試験の成績概要について. 平成 30 年度北海道野菜ブランド力強化推進事業に係る成績検討会(2018.11.20).

○柳田大介. ブロッコリーの品種選定試験の成績. 北海道野菜セミナー 2019(2019.3.11).

○鳥越昌隆. 野菜の省力化栽培（機械収穫など）について. JA美唄野菜省力化栽培研修会(2019.2.6).

## 7. 各種委員

- 植野玲一郎. 北海道野菜地図編集委員.
- 植野玲一郎. 北海道園芸研究談話会会計幹事.
- 江原清. 北海道園芸研究談話会会計幹事.
- 大久保進一. 地熱・温泉熱アドバイザー. 北海

道経済部.

○大宮知. 北海道フラワーガイド編集委員.

○大宮知. 愛知豊明鉢物流通改善協議会 鉢物品評  
会 2018 鉢花・蘭の部審査委員.

○川岸康司. 北海道フードマイスター検定運営委  
員、原稿小委員.

○鳥越昌隆. 日本植物調節剤研究協会専門調査員.

○柳田大介. 平成 30 年度北北海道学校農業クラブ  
連盟実績発表大会外部審査委員.

## Ⅷ 自己点検への対応

事 項	件数等		
	H30	H29	H28
各機関へ直接寄せられたニーズ把握件数	0	0	4
研究成果発表会・企業向けセミナーの開催件数	4	1	1
同参加者数	538	77	366
研究会等の開催件数	0	0	0
展示会等への出展件数	0	2	1
研究報告書の発行件数	0	2	1
技術資料の発行件数	0	2	1
その他紙媒体発行件数	0	0	0
普及組織との連絡会議等開催件数	15	8	26
企業等へ訪問し広報活動した件数	8	3	1
行政や企業等で活用された成果の数	0	0	0
設備使用の件数	0	0	0
研究成果発表会・企業向けセミナーによる公表件数	10	12	13
研究会における公表件数	0	0	0
学会誌等への投稿件数①学会誌	8	10	7
学会誌等への投稿件数②雑誌（専門誌、商業誌）	14	13	27
学会誌等への投稿件数③書籍	2	3	0
学会誌等への投稿件数④新聞	0	2	2
学会誌等への投稿件数⑤その他	1	0	0
研究報告書での発表件数	1	0	2
学会やシンポジウム等での発表件数	8	17	6
ホームページ等による公表件数	0	1	0
プレスリリース、定例報道懇談会の件数	7	8	9
学会役員・委員件数	7	9	12
技術相談の実施件数	197	95	143
技術指導の実施件数	4	1	3
講師等派遣の実施件数	15	7	10
技術審査の実施件数	0	2	0
研修会・講習会の開催件数	10	9	9
同参加人数	689	465	573
研修者の受入人数	39	40	69
道関係部との連絡会議等の開催件数	5	13	33
市町村との意見交換等の開催件数	1	0	1
関係団体との意見交換等の開催件数	2	13	4



事 項	件数等		
	H30	H29	H28
道民意見把握調査の回答数	388	286	276
出前授業の実施件数	0	0	2
国内研修Ⅱ（外部講師招聘・受け入れ件数）	0	0	0
国内研修Ⅰの派遣件数	0	0	0
国内研修Ⅱの派遣件数	5	2	2
道民向けイベントの開催件数	1	1	3
同参加人数	233	220	390
国際協力事業等への協力件数	3	3	6
同参加人数	23	27	41
災害等に関係した技術指導件数	0	0	0
災害等に関係した委員派遣人数	0	0	0
ホームページ発信・更新件数	14	11	13
メールマガジン発信件数	0	0	0
フェイスブック発信件数	0	0	0
その他電子媒体発信件数	0	0	49
職場研修実施件数	3	7	4
グリーン購入の金額（千円）	3,597	925	3,611
視察・見学者の受入件数	18	32	34
同人数	325	493	465

ISSN 1346-7506

---

---

平成30年度 (2018)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
花・野菜技術センター年報

---

令和2年2月 発行

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
農業研究本部 花・野菜技術センター

〒 073-0026 北海道滝川市東滝川735番地

Tel. 0125-28-2800(代表・総務課)

Tel. 0125-28-2291(花き野菜グループ)

Tel. 0125-28-2292(生産環境グループ病虫)

Tel. 0125-28-2293(生産環境グループ栽培環境)

Tel. 0125-28-2211(技術研修グループ)

Tel. 0125-28-2212(技術普及室)

Fax. 0125-28-2165 (総務課)

Fax. 0125-28-2299 (研究部、技術普及室)

---

---